

「腫瘍由来循環 DNA を用いた移植後微小残存白血病病変に関する
多施設共同前方視的解析研究」に参加した事がある患者様へ

研究に関するお知らせ

研究課題名：「腫瘍由来循環 DNA を用いた移植後微小残存白血病病変に関する
多施設共同前方視的解析研究」- KSGCT1702(継続)研究

2025 年 7 月 15 日

研究責任者 氏名・所属：横山和明 血液腫瘍内科

私どもは、人の「ゲノム」の解析を通じ、血液のがんである急性骨髄性白血病(以下、AML)をより正確に理解し、AML の発症予防法やより良い治療法を開発することを目指しています。

その為の研究の取り組みとして、2018 年からは、関東造血幹細胞移植共同研究グループ(以下、KSGCT) 参加施設において、AML の骨髄破壊的造血幹細胞移植症例を対象とした「腫瘍由来循環 DNA を用いた移植後微小残存白血病病変 に関する多施設共同前方視的解析研究」(以下、KSGCT1702 研究)を行っています。

KSGCT1702 研究では、まず、最新の網羅的な遺伝子解析法を用いて、患者様の病的血球(腫瘍)と正常細胞の次世代シーケンサーによる解析を行います。得られた結果を病的血球と正常細胞で比較することにより、腫瘍にのみおこっている遺伝子の異常を明らかにします。次に腫瘍にのみおこっている遺伝子の異常が判明します。次にこの情報を参照して、最新の高感度遺伝子異常検出法を用いて血漿中の病的血球由来の微量な遺伝子異常(腫瘍由来循環 DNA)を検出、測定します。最後に造血幹細胞移植後の血漿中の腫瘍由来循環 DNA 量の経時的な推移を観察します。その目的は移植後腫瘍由来循環 DNA が移植後に残存したり、その量が移植後徐々に増加する事が再発に影響するかを調べる事により、新たな再発予測法を確立する事です。

これまで、2018 年より移植を受ける予定の 20 歳以上、65 歳以下の方、70 名を対象として行い、2023 年 3 月末までに 70 名の方の登録が得られましたが、世界的な COVID19 の流行に伴い、解析の進捗に大幅な遅れが生じ、上述の研究の目的をまだ達成できておりません。そこで研究期間を引き続き 2028 年 3 月末 まで延長する事にいたしました。

この研究では、患者様の血液や骨髄液などから採取した DNA、骨髄や血液細胞などの試料ならびに診療情報が必要となります。つきましては、下記に該当する患者様の試料及び診療情報を使わせていただきますこととお知らせいたします。

試料及び診療情報を使用させていただくにあたっては、個人情報厳重に保護※しますのでご安心ください。

※診療情報から個人識別情報(氏名、住所、電話番号、生年月日など)を取り除き、代わりに新しく符号をつけます。個人識別情報と照合できる資料(対応表)

は、本研究の個人情報保護責任者が厳重に管理致します。

対象となる患者様：

- 東京大学医科学研究所附属病院血液腫瘍内科における『腫瘍由来循環 DNA を用いた移植後微小残存病変に関する多施設共同前方視的解析研究（承認番号 29-62-B0307）』に研究に同意して参加され、同意を撤回されておらず、必要な試料・情報が保存されている患者様

以上の患者様に、試料及び診療情報を引き続き使っていただきご協力をお願いしております。

研究期間：

2025 年 7 月 15 日（機関の長の許可日）～2028 年 3 月 31 日

研究組織：

本研究全体の代表機関 東京大学医科学研究所附属病院 血液腫瘍内科 横山 和明
本研究の分担機関

東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科

横浜市立大学附属病院 血液・リウマチ・感染症内科

神奈川県立がんセンター 血液内科

日本赤十字社医療センター 血液内科

千葉大学医学部附属病院

千葉市立青葉病院 血液内科

東京女子医科大学病院 血液内科学講座

研究に関するご質問等がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

また、試料・情報が本研究に利用されることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

<連絡先>

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所附属病院

血液腫瘍内科 准教授 横山和明

電話: 03-3443-8111（代表）

<当院の連絡先>

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

横浜市立大学附属病院

【横浜市大用】

血液リウマチ感染症内科 講師 萩原真紀
電話：045-787-2630（代表）